

生きものたち



特定外来生物

「オオクチバス」
(サンフィッシュ科)
成魚は 25 ~ 50cm

世界中で問題になっている外来魚。本種を含む数種を総称して「ブラックバス」と言うが、井の頭池にいるのは本種。大きい口を持ち、攻撃的で肉食性。釣りの対象魚として密放流されることが多い。



特定外来生物

「ブルーギル」
(サンフィッシュ科)
成魚は 10 ~ 25cm

体高の高い平たい魚で、稚魚は上から見るとメダカと間違われることがある。オオクチバスと一緒に密放流されることが多い。



要注意外来生物

「アメリカザリガニ」
(アメリカザリガニ科)
体長 約 11cm

子供たちに人気だが、やはり外来種。雑食性で、水草、小動物を食べる。飼育されていたものが放たれて増えることが多い。井の頭池でも繁殖している。



要注意外来生物

「ミシシッピー
アカミミガメ」
(ヌマガメ科)
背甲長 約 28cm

井の頭池に最も多いカメ。目尻の部分に赤～オレンジ色の斑紋がある。幼体が「ミドリガメ」の名前でペットとして販売されるが、大きくなって捨てられ、野生化することが多い。

井の頭池で見られるその他の生き物

在来生物では、ウナギ、スッポンなどもあります。外来生物では、「特定外来生物」のカミツキガメ、ウシガエル、「要注意外来生物」のソウギョ、カムルチー、ミシシッピーチズガメ、リパークーターなどが見つかっています。なお、井の頭池にいるコイ/ニシキゴイ、ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）、ギギ、ヌマチチブも井の頭池にとっては外来生物（国内外来種）です。

外来生物法と「特定外来生物」・「要注意外来生物」

外来生物の中には「地域の自然環境」、「人体」、「農林水産業」へ大きな悪影響を与えるものもあり、これらは「侵略的外来生物」とも言われます。環境省は2004年に「外来生物法」を公布し、これら侵略的外来生物を「特定外来生物」として指定し、その取り扱いを規制、防除を推進しています。また、生態系に影響を及ぼすことが知られている（又はその可能性がある）ことから、適切な取り扱いをし、引き続き知見収集を行うべき外来生物を「要注意外来生物」として指定しています。



在来生物

「モツゴ」
(コイ科)
成魚は約 8cm

東京では「クチボソ」の名前でも知られる。とがった頭部とやや上向きの口が特徴。井の頭池に最も普通に見られた魚だが、激減している。



在来生物

「ナマズ」
(ナマズ科)
成魚は 30 ~ 40cm

口ひげが4本あり、大きな頭に大きな口を持つ。夜に活発に遊泳して小魚やエビなどを捕食する。



在来生物

「トウヨシノボリ」
(ハゼ科)
成魚は約 7cm

川・湖沼に普通に見られる雑食性のハゼ。眼から口にかけて赤い筋、体側に斑紋がある。井の頭池にも多くいたが、減っていると考えられる。



在来生物

「ウキゴリ」
(ハゼ科)
成魚は 10 ~ 15cm

東京都の「絶滅の危機が増大している野生生物」。川や湖沼に広く分布する肉食性のハゼ。井の頭池にも昔から生息していた。



在来生物

「テナガエビ」
(テナガエビ科)
体長 約 8 ~ 10cm

「カワエビ」と呼ばれ食用にもされる。オスの足は体長の1.5倍以上になる。近年は個体数が激減しており、井の頭池でも減ってしまった。



在来生物

「スジエビ」
(テナガエビ科)
体長 約 5cm

川や湖沼など広く分布する淡水エビ。生きているときは透明で、黒い筋が目立つ。井の頭池にもかつてはたくさんいたが、減っている。



在来生物

「ニホンイシガメ」
(ヌマガメ科)
背甲長 ♂約 13cm ♀約 19cm

日本固有種。環境省の「絶滅のおそれのある野生生物」。外来生物、水質汚染、環境破壊によりその数が減っている。井の頭池でも見ることは少ない。



在来生物

「クサガメ」
(ヌマガメ科)
背甲長 ♂約 18cm ♀約 25cm

四肢の付け根から臭いニオイを出すので「クサガメ」。甲羅の背に真ん中と左右にあわせて3本の高くなった筋がある。井の頭池でよく見られる。

よみがえれ!! 井の頭池! 井の頭池を「外来魚」から取り戻すために…

「外来魚」駆除のための捕獲・実験をしています

東京都を代表する都立公園である井の頭恩賜公園の池も、今やブラックバス、ブルーギル、ミシシippアカミミガメなどの外来生物に占有されてしまいました。

これらの外来生物は、もともと井の頭池にいた生き物(在来生物:モツゴ、ハゼ類、エビ類、昆虫など)やその卵を餌として食べています。また、在来生物の餌や生育の場も奪ってしまいます。このことが、井の頭池の在来生物が減少し、生物多様性が失われつつあることの大きな原因のひとつとなっています。

井の頭池を昔のような豊かな生態系の池に戻すために、「井の頭外来生物問題協議会」は外来魚駆除のための捕獲調査・実験に取り組んでいます

井の頭池の現状と活動の成果(1)

外来魚が占有する池

これまでの捕獲調査・実験は、井の頭池が外来魚に占有され、在来生物がとてもなく少なくなっていることを示しています。2007年7月～2009年11月の期間に実に約18万匹ものブルーギルと3千6百匹ものブラックバスを捕獲しました。

種類別の魚類の捕獲数

種類	外来魚		在来魚	
	ブルーギル	ブラックバス	モツゴ	ハゼ類
総計	179,512	3,651	4,065	375

(在来魚を捕獲した時は池に戻しています)

2008年11～12月に東京都西部公園緑地事務所が外部機関に委託実施した魚類調査では、ブルーギルの推定個体数は27万匹とされています。

外来魚による在来生物の捕食

捕獲した外来魚の胃を調べてみると、肉食性のブラックバスは池の在来生物(モツゴ、エビ類、ハゼ類)やブルーギルを盛んに捕食していること、雑食性のブルーギルは藻類、昆虫、在来生物など何でも食べていますが、他の魚の産卵期にはその卵を食べていることがわかりました。

外来魚の盛んな繁殖

春から夏にかけておびただしい数の外来魚の稚魚の群れが見られ、盛んに繁殖していることが確認されています。

2009年の春は、約20か所のブラックバスの産卵場所が発見され、人工産卵床の仕掛けと合わせて40回以上の産卵が確認されています。

在来魚 2.4%

外来魚 97.6%



ブラックバスの胃から出てきたモツゴ



人工産卵床に産み付けられたブラックバスの卵

井の頭池の現状と活動の成果(2)

少しずつ見えてきた成果!

外来魚の捕獲実験を始めて3年目の2009年、在来魚のモツゴの数が増えつつあると感じられるようになりました。

これは活動を通して開発されたオダ網によりブルーギルの捕獲効果が高まったこと、ブラックバスの産卵場所の発見と人工産卵床による繁殖抑制が一定の効果あげていることなどによると思われます。

もともと池にいない生き物が、まだ…



白っぽいメダカ

捕獲実験の際に、いまだに井の頭池にいるはずのない新しい生き物がいろいろ見つかります。まだ、池に生き物を放す人たちがいるようです。

ペットや他の地域に生息していた生き物を放すことは池の生態系に大きな影響を与えてしまいます。



開発された「オダ網」。ブルーギルの捕獲に非常に有効



人工産卵床。ブラックバスの卵除去に有効

井の頭池の自然を守るためにご協力ください!

外来生物やペットを池に捨てたり、入れたりしない

「可哀想だから」、「飼いきれなくなったから」とペットを放すことは、間接的に井の頭池の在来生物の生存を脅かし、また、池の生態系を乱すこととなります。

外来生物を放す人を見逃さない

ペットやコイを放そうとする人や、ブラックバスやブルーギルなどを密放流している人を見たら、公園案内所に連絡してください (tel: 0422-47-6900)。特定外来生物の場合は警察も対応してくれます。地域のみなさんの監視の目は大きな力になります。

【井の頭外来生物問題協議会とは】

市民団体の外来生物調査・駆除活動や池の浄化活動を土台として、東京都西部公園緑地事務所と市民団体が2008年に立ち上げた協議会です。参加市民団体は現在4団体(井の頭かんさつ会、NPO法人生態工房、神田川ネットワーク、東京吉祥寺ライオンズクラブ)です。

2008年は4月と9月に「外来魚捕獲大作戦」を実施し、2009年には東京都西部公園緑地事務所の電気ショッカー船による外来魚調査に協力しています。

また、2009年度には社団法人関東建設弘済会(国土交通省管轄)「第1回関東・水と緑のネットワーク拠点百選」に選ばれました。同事務局からの支援も得て、これからも活動する予定です。

漁具の購入など、活動には大きな費用がかかります。個人・企業の皆様からの寄付をお願いしております。捕獲実験活動時には募金も行っています。ご支援をよろしくお願いいたします。

作成・発行: 井の頭外来生物問題協議会(2009年12月)
事務局・連絡先: 東京都西部公園緑地事務所 管理課

謝意: 本チラシは、『井の頭公園まるごとガイドブック』の発行元である(株)文伸/ぶんしん出版様の無償協力により印刷することができました。